

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104811
法人名	有限会社ライフサポートさくら草
事業所名	グループホーム軽井沢
所在地	愛媛県松山市南齊院町乙19番地5
自己評価作成日	平成24年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 10月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者と職員が共に支えあい笑顔で生活しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、高台にある閑静な住宅地に建ち、総合公園の緑や高校のグラウンドが見渡せ、利用者はその景色を楽しんでいる。職員は利用者のできること、できないことを見極め、一人ひとりの活躍できる場を見つけることで、自信を持ってもらい居場所を感じてもらえるよう支援している。また、特に排泄の自立支援に力を注ぎ、利用者が自信を持って暮らせる、よい効果となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム軽井沢
(ユニット名)	ぽんかん
記入者(管理者)	
氏名	山脇利美
評価完了日	平成24年 9月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念をつくっているが、実践していない。	
			(外部評価) 職員は事業所の理念をよく理解しており、職員は利用者のできることで、できないことを見極め、一人ひとりの活躍できる場を見つけることで、自信を持ってもらい居場所を感じてもらえるよう支援している。職員は、利用者との関わりを大切にしながら、理念を実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近くの保育園の園児が散歩時に寄ってくれたり、敬老の日には、毎日毎年プレゼントを持ってきてくれるホームからも、毎年、クリスマスプレゼントを入居者と持っていつている。	
			(外部評価) 自治会に加入しており、ゴミ捨て場の掃除を職員が行っている。お祭りの時には神輿が事業所に来てくれ、利用者は楽しみにしている。近所の保育園園児が事業所の近くを散歩し、利用者は会話を楽しんでいる。地域の人が野菜を持ってきてくれたり、公園ボランティアの方から外出先の提案をもらったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 支援方法等は活かしておらず不十分である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 二か月に一度開催しており、利用者の家族さんにも参加して頂けるように、声掛けに努めている。利用者の様子や事業所の取り組みについても話し合いサービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、家族や自治会長、民生委員、市職員、市社協職員、地域包括支援センター職員が参加している。薬局の薬剤師を招いて、服薬についての勉強会を行うなど内容に工夫が見られる。会議で出された意見は、職員にも伝えているが、話し合いを行うまでには至っていない。</p>	市職員の参加もあり、外部に事業所をよく知ってもらい意見を取り入れる体制はできているが、より多様な参加者と活発な意見交換が望まれる。運営推進会議を通して、事業所が地域の福祉資源となる取組みにも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、ホームの様子を報告しアドバイスを頂いている 利用者の状態や変化があった時にも報告・相談をしている。</p> <p>(外部評価) 日頃から、利用者の状態や生活保護の相談を市担当者にしていく。また、運営推進会議の議題について、市介護保険課や地域包括支援センターに相談し取り入れるなど、連携を図っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 勉強会を開き職員全員で身体拘束について話し合い身体拘束をしないように努めている。 また、玄関のカギへかけないようにしている。</p> <p>(外部評価) 年に1回、身体拘束や虐待についての職員研修会を行い、どんなことが身体拘束や虐待にあたるかを例に挙げて話し合うなど、理解を深めている。また、職員間の普段の会話の中でも、身体拘束を常に意識するよう努めている。日中は、玄関やベランダへの出入り口、ユニット間をつなぐ扉は開放し、自由な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き職員全員で話し合い、再確認、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度があることは知っているが内容までは把握しておらず又学ぶ機会等設けていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所する前にきちんと話し合いをしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の来初時には利用者の状況を詳しく、お伝えし家族の要望をお聞きし、それを日々のケアに実践できるように、努めている。	
			(外部評価) 利用者は独居だった人や家族が遠方に住んでいる人が多く、家族が面会に来たり行事に参加することが困難なため、毎月、ホーム便りと手紙を郵送し、利用者の暮らしが思い浮かぶよう心配りをしている。家族とは電話で意見や要望を聞き取り、利用者本位に対応するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に関する意見、提案の会議は設けていないが個人単位で疑問がある時は話し合っている。 (外部評価) 定期的な職員会は設定していないが、朝礼や申し送り時などに話し合いを行っている。職員の要望や意見は管理者が個々に聞き取ったり、職員同士が相談して管理者に伝え、管理者から代表者へ伝えている。代表者は日常的に事業所に足を運び、職員の意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 労働時間が長くないよう配慮されている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員一人一人の力量は把握している。小人数ではあるが研修に参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) セミナーや研修のお知らせは職員の目の届く場所にあるが職員全員参加はしていない。小人数ではあるが研修に参加できるよう支援されている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前、本人、家族と面談し利用に至るまでの状況、不安、要望を聞き不安が軽減できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に家族と面談し困り事や利用者、家族の要望を聞き不安事等ある場合は時間を設け話をできる関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の希望を聞き、希望にそえるよう職員会議で話し合い支援できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「本人の気持ちに寄り添う」という理念のもと努めているが	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の来初時には共に過ごせる空間を作っている 又家族にホームでの生活や入居者の健康状態を伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友達との手紙のやり取りやいつでも電話ができるよう支援している。信仰している宗教の集まりに参加してもらい関係が途切れないように努めている。 (外部評価) 入居時のアセスメントや普段の会話、来訪者の話から、これまでの馴染みの関係を把握するようにしている。また入居後の新たな馴染みの関係が作れるよう支援し、行きつけの美容院ができたり、たこ焼き屋の常連客となったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士のトラブルが起こらないよう人間関係を把握し、トラブルがあった時は職員が間に入り、利用者が孤立、不満が残らないよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院した入居者のお見舞いに行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者との会話の中から本人の希望・意向の把握に努めているが、「何もしない」と話す入居者にはホームでの生活状態から察知し少しでも暮らしやすいよう支援している。	
			(外部評価) 介護記録に一日の過ごし方だけでなく、会話の内容を意識して書き残し、職員全員が記録に目を通すことにより、利用者の思いの把握に努めている。思いを表すことが苦手な利用者には、表情を観察したり、元気だったときに好んでいたことなどを参考に、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴、生活環境は本人の会話や家族から聞き把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方、心身状態は介護記録に記入し特変路は職員間で申し送りし現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々の、利用者様の状況を職員間の話し合いにより書く利用者様に適した介護計画に努めている。	
			(外部評価) 職員は利用者に対して担当制をとっており、担当職員が利用者や家族の要望を聞いて、課題をまとめ、話し合いを行うことで介護計画を作成している。担当制をとるようになってから、職員間の話し合いも増え、利用者がより良く生活することを意識した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) できている。 各、職員の記録、色々な考え方、見方を活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者様の好みに応じ、柔軟な支援ができるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、外出、買い物など同行しリフレッシュするようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) できている。医師の訪問の際、各利用者様の健康状態 を報告している。よりよい生活ができるよう、医師と の 相談もしている。	
			(外部評価) 入居時に、利用者と家族から医療についての要望等を 聞いて、かかりつけ医を選択してもらっている。訪問 看護や、協力医の24時間対応も受けることができ る。家族の協力を得ながら、協力医療機関での受診も 支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) できている。定期的にくられる看護師に、各利用者様 の、情報を共有している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院は、利用者の状態、御家族様との相談により、決 定している。退院時は、より以前の暮らしに戻るよ うに連携を図っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 御家族や医療機関との連携を密にし事業所でできるこ とを説明し、実践している。	
			(外部評価) 重度化した場合や終末期の支援については、利用者や 家族に入居時に説明し、状況に合わせて希望などを確 認している。協力医はすべて24時間対応で往診も可 能となっている。これまでに看取りの経験もあり、運 営推進会議で経過や結果の報告をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練は受けておらず、実践力が、身に付いているとは言えません。勉強したり、他の職員から教わったりしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災時の避難訓練を受け、実際に利用者の方々の誘導等を行った。 (外部評価) 年2回の火災時避難訓練では、地域住民も参加し、消防署から消火器の使い方の指導などを受けた。職員は、町内会が行う心肺蘇生法訓練に毎年参加している。代表者は防災士でもあり、地域の協力体制に力を入れている。台風や大雨時には、消防署が土砂災害防止の点検で地域の見回りに来ている。	火災や地震、土砂崩れなどそれぞれの災害対策について、職員が話し合いを行い、常に危機感を持つことが望ましい。地域との協力体制について、自治会への連絡方法の確立や協力内容の検討など具体的な体制作りを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉掛けや対応は常に気をつけているが”慣れ”や”大丈夫だろう”とゆう考えがでてきてしまうことがある。 (外部評価) 利用者の尊厳とプライバシーに配慮し、他人に聞かれたくないことは大きな声で話さないなど、利用者の思いに立って関わるよう努めている。利用者が本音を話しやすいように、入浴時や利用者の居室など、他の利用者がいない場面では、話をゆっくり聞くように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) なるべく本人様の*思い*を尊重しているつもりですが、こちらの決定に本人様が動いてもらってる時もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人様のペースを大切にしているつもりだが、こちらの都合に誘導してしまっている時もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 気候に合った服装や、洗面、口腔ケアなど声掛けし、整容していただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に食事はできていないが、準備や片付けを手伝っていただいている。	
			(外部評価) 同法人では、グループホームと関連事業所の食事をまとめて作っている。献立については、アンケート調査で希望や要望を把握し、メニューに反映させている。職員は、利用者の持てる力を活かせるよう、声かけをして下膳や食器洗いなどを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) こまめに水分補給していただけるよう、声掛けし、食事量も一人一人の状態を見て、気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声掛け、誘導し本人様のペースに合わせて行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 食後などを含め、個々の排泄パターンを考えたいうでのトイレの声掛けをおこなっている。	
			(外部評価) 排泄パターンは、介護記録に時間や量を記録して把握するようにしている。昼間も夜間もトイレで自立した排泄ができるよう支援している。職員は、おむつを使用しないでトイレで排泄する支援に力を注ぎ、利用者は日常生活においても自信を持って暮らせるなど、よい効果となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々に対応し、起床時の飲み物など工夫をし予防に取り組んでいる、また、排便を促せるように散歩に出掛けたりしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員が決めている部分もあるが、利用者の希望にも応じている。	
			(外部評価) 3日に1回の入浴を基本とし、入浴が好きな利用者には希望に合わせた入浴支援をしている。シャワー浴の利用者も多く、浴槽に入れない利用者には足浴を行って温まってもらい、爽快感を味わってもらえるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々に休息の時間をとってもらっている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 介護記録に目的や副作用をを付けておりいつでも確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に対し、家事等を行ってもらう等の役割を持っていただいている。個々の状態を考え、外出等の気分転換の機会を持っていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 御本人の希望にできる限り、添う形で戸外に出掛けることができるようにしている。	
			(外部評価) 事業所の周囲は閑静な住宅街で、車椅子の利用者も日常的に散歩を楽しめる。月に1回、外食や季節を感じるためのドライブに出かけており、利用者は楽しみにしている。お花見や外食の時には家族にも呼びかけて、一緒に外出を楽しめるようにしている。利用者の希望により、個別に買い物に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の状態によりお財布をもっといただいたりしており本人の希望により、お金を使えるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 個々の利用者の希望により、電話をしたり手紙のやり取りをできるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングの見やすい所に文字の大きいカレンダーを置き季節の飾りなど飾っている。</p> <p>(外部評価) 食堂は天井が高く天窓があるため、明るく開放感がある。空調管理が行き届いている。事業所は高台にあり、風通しがよく見晴らしがよいため、利用者はウッドデッキにある椅子や窓際のソファに腰掛け、ゆったりと過ごしている。共用空間の掃除は職員が行っており、モップがけなどを利用者が手伝っている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングにTV、ベランダ側にはソファが置いてあるので個々にあった空間を提供している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 今までの生活のなかで使っていたものを居室に置ってもらっている。仏壇を持ってきて置いている人もいる。</p> <p>(外部評価) 居室には介護ベッドが備え付けられている。自宅からテーブルやたんすなど使い慣れたものを持ち込めて、利用者や家族の思いが反映されている。居室を自分で掃除する利用者もおり、職員は利用者のできることを見守りながら、その人らしい暮らしを支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下、トイレ、浴室に手すりがあり、利用者がもっている力を発揮できる環境づくりをしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104811
法人名	有限会社ライフサポートさくら草
事業所名	グループホーム軽井沢
所在地	愛媛県松山市南齊院町乙19番地5
自己評価作成日	平成24年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 10月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人おひとりの力を見極めながら、持っている力を発揮できる場面を作り、利用者を介護される側だけでなく、職員も助けてもらいながら共に生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、高台にある閑静な住宅地に建ち、総合公園の緑や高校のグラウンドが見渡せ、利用者はその景色を楽しんでいる。職員は利用者のできること、できないことを見極め、一人ひとりの活躍できる場を見つけることで、自信を持ってもらい居場所を感じてもらえるよう支援している。また、特に排泄の自立支援に力を注ぎ、利用者が自信を持って暮らせる、よい効果となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム軽井沢

(ユニット名) さくらんぼ

記入者(管理者)
氏名 山脇利美

評価完了日 平成24年 9月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は作られているが共有は不十分である。	
			(外部評価) 職員は事業所の理念をよく理解しており、職員は利用者のできることに、できないことを見極め、一人ひとりの活躍できる場を見つけることで、自信を持ってもらい居場所を感じてもらえるよう支援している。職員は、利用者との関わりを大切にしながら、理念を実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 防災訓練に参加したり散歩の時の挨拶程度で日常的な関わりとまではいかない。	
			(外部評価) 自治会に加入しており、ゴミ捨て場の掃除を職員が行っている。お祭りの時には神輿が事業所に来てくれ、利用者は楽しみにしている。近所の保育園園児が事業所の近くを散歩し、利用者は会話を楽しんでいる。地域の人が野菜を持ってきてくれたり、公園ボランティアの方から外出先の提案をもらったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 事業者からの情報提供発信できていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) サービス向上に活かしてきていない。	市職員の参加もあり、外部に事業所をよく知ってもらい意見を取り入れる体制はできているが、より多様な参加者と活発な意見交換が望まれる。運営推進会議を通して、事業所が地域の福祉資源となる取組みにも期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議には、家族や自治会長、民生委員、市職員、市社協職員、地域包括支援センター職員が参加している。薬局の薬剤師を招いて、服薬についての勉強会を行うなど内容に工夫が見られる。会議で出された意見は、職員にも伝えているが、話し合いを行うまでには至っていない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて相談・報告できている。	日頃から、利用者の状態や生活保護の相談を市担当者にしていく。また、運営推進会議の議題について、市介護保険課や地域包括支援センターに相談し取り入れるなど、連携を図っている。
			(外部評価) 日頃から、利用者の状態や生活保護の相談を市担当者にしていく。また、運営推進会議の議題について、市介護保険課や地域包括支援センターに相談し取り入れるなど、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束しないように夜間以外の時間帯は玄関の施錠を行わないようなケアに心掛けている。	年に1回、身体拘束や虐待についての職員研修会を行い、どんなことが身体拘束や虐待にあたるかを例に挙げて話し合うなど、理解を深めている。また、職員間の普段の会話の中でも、身体拘束を常に意識するよう努めている。日中は、玄関やベランダへの出入り口、ユニット間をつなぐ扉は開放し、自由な暮らしを支援している。
			(外部評価) 年に1回、身体拘束や虐待についての職員研修会を行い、どんなことが身体拘束や虐待にあたるかを例に挙げて話し合うなど、理解を深めている。また、職員間の普段の会話の中でも、身体拘束を常に意識するよう努めている。日中は、玄関やベランダへの出入り口、ユニット間をつなぐ扉は開放し、自由な暮らしを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 話合いの場を持ち、防止に努めているが、職員全体での意識付けにはつながっていない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 学ぶ機会を持っておらず、活用できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) その都度説明行っており、話合いができています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 全てではないが、意見や要望を出せる関係づくりに努めている。	
			(外部評価) 利用者は独居だった人や家族が遠方に住んでいる人が多く、家族が面会に来たり行事に参加することが困難なため、毎月、ホーム便りと手紙を郵送し、利用者の暮らしが思い浮かぶよう心配りをしている。家族とは電話で意見や要望を聞き取り、利用者本位に対応するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見を聞いてくれる雰囲気は、提案を聞く機会に設けられていない。 (外部評価) 定期的な職員会は設定していないが、朝礼や申し送り時などに話し合いを行っている。職員の要望や意見は管理者が個々に聞き取ったり、職員同士が相談して管理者に伝え、管理者から代表者へ伝えている。代表者は日常的に事業所に足を運び、職員の意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 休憩時間は確保されている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人研修を行っている。 研修参加を申告すれば用途に応じた便を計ってくれる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者との交流はない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること不安や要望を取り入れながら、関係づくりができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 御家族の話に耳を傾け、受け止めながら、関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 何が必要かを見極め段階的な支援ができるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者ができる事は尊重し苦手は部分は、お手伝いさせて貰ってる中で、利用者の今までの暮らし方や、これからの暮らし方の意向等、把握しようと努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 全ての方に、あてはまらないが、協力していただける範囲で共に支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人がこれまで培ってきた友人や知人、行きつけの場所等つきあいを続けられるように支援できている。	
			(外部評価) 入居時のアセスメントや普段の会話、来訪者の話から、これまでの馴染みの関係を把握するようにしている。また入居後の新たな馴染みの関係が作れるよう支援し、行きつけの美容院ができたり、たこ焼き屋の常連客となったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士との間に介在する場面が多く、利用者同士が支えあって暮らす事の大切さを認識しているものの、利用者同士の関係構築の支援をしきれていない。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 看取りごとに新しい利用者が入られるという事が多く、利用者のサービスの利用が終了という場面はほとんどないが、そういう場面になった場合は利用者の転居等のダメージが少なくなるよう本人の状況、これまでのケアの情報を提供したい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の思いや意向について職員が関心を払い把握しようと努めている。しかし把握が困難な際に本人の視点にたって意見を出し合う等、次のステップへの取り組みが出来ない事が多い。	
			(外部評価) 介護記録に一日の過ごし方だけでなく、会話の内容を意識して書き残し、職員全員が記録に目を通すことにより、利用者の思いの把握に努めている。思いを表すことが苦手な利用者には、表情を観察したり、元気だったときに好んでいたことなどを参考に、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、職員が本人や家族等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員一人一人が利用者を客観的に見れるように努めている。特に本人の出来るか、わかるかについては職員間同士の連携、コミュニケーションを密にし見極めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の希望を取り入れながら、担当職員、職員と共に話し合いの場を持ち作成しているが家族の思いを組み取れていない方もいる。	
			(外部評価) 職員は利用者に対して担当制をとっており、担当職員が利用者や家族の要望を聞いて、課題をまとめ、話し合いを行うことで介護計画を作成している。担当制をとるようになってから、職員間の話し合いも増え、利用者がより良く生活することを意識した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録に日中の様子や状態の変化等を記録し職員全体で把握できるようにしておりケアにつなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者に応じて、その時に必要なサービスを取り入れている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの方に訪問していただいたり、地域の美容院を利用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 希望される病院を選択できるようにしており、協力病 院とは、24時間連絡がとれ、常時相談や報告ができる ようになっている。	
			(外部評価) 入居時に、利用者と家族から医療についての要望等を 聞いて、かかりつけ医を選択してもらっている。訪問 看護や、協力医の24時間対応も受けることができ る。家族の協力を得ながら、協力医療機関での受診も 支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師に情報提供しており、助言を受けながらケアに 活かしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院に面会に行き、状態の把握に努め早期退 院につなげている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に本人、家族等と話し合いをしており状態に応 じて本人にとって何が必要かを、共に考えている。	
			(外部評価) 重度化した場合や終末期の支援については、利用者や 家族に入居時に説明し、状況に合わせて希望などを確 認している。協力医はすべて24時間対応で往診も可 能となっている。これまでに看取りの経験もあり、運 営推進会議で経過や結果の報告をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練は行えていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を行い、地域の方に協力を呼びかけているが全職員は参加できていない。 (外部評価) 年2回の火災時避難訓練では、地域住民も参加し、消防署から消火器の使い方の指導などを受けた。職員は、町内会が行う心肺蘇生法訓練に毎年参加している。代表者は防災士でもあり、地域の協力体制に力を入れている。台風や大雨時には、消防署が土砂災害防止の点検で地域の見回りに来ている。	火災や地震、土砂崩れなどそれぞれの災害対策について、職員が話し合いを行い、常に危機感を持つことが望ましい。地域との協力体制について、自治会への連絡方法の確立や協力内容の検討など具体的な体制作りを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 心がけているが、何度も同じ訴えを繰り返される時に否定している事がある。 (外部評価) 利用者の尊厳とプライバシーに配慮し、他人に聞かれたくないことは大きな声で話さないなど、利用者の思いに立って関わるよう努めている。利用者が本音を話しやすいように、入浴時や利用者の居室など、他の利用者がいない場面では、話をゆっくり聞くように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 表情を見ながらの声掛けや、自己決定できる場面を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の体調やペースに合わせてながら1日を過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人の好みのおしゃれができるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事介助や休憩時間の確保の為、一緒に食事はできていないが準備や片付けは、利用者の力を借りながら行っている。	
			(外部評価) 同法人では、グループホームと関連事業所の食事をまとめて作っている。献立については、アンケート調査で希望や要望を把握し、メニューに反映させている。職員は、利用者の持てる力を活かせるよう、声かけをして下膳や食器洗いなどを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分摂取量を職員全体で把握できるように記録に残しており、必要に応じて水分量を計ったり、栄養が確保できるよう職員間で話し合いの場を持っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個別の口腔状態を把握しており、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンや力量に応じて支援できている。	
			(外部評価) 排泄パターンは、介護記録に時間や量を記録して把握するようにしている。昼間も夜間もトイレで自立した排泄ができるよう支援している。職員は、おむつを使用しないでトイレで排泄する支援に力を注ぎ、利用者は日常生活においても自信を持って暮らせるなど、よい効果となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の水分量、食事量を把握しその状態に合わせた水分補給の声掛け等を行い取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望にはそえておらず、楽しめる環境をつくれていない。	
			(外部評価) 3日に1回の入浴を基本とし、入浴が好きな利用者には希望に合わせた入浴支援をしている。シャワー浴の利用者も多く、浴槽に入れない利用者には足浴を行って温まってもらい、爽快感を味わってもらえるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々合わせた睡眠パターンを把握できており日中の中でも休息できる時間を確保できている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 飲み忘れや誤薬を防ぐよう務めており、症状も観察できている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人に合った役割や楽しみごとができるよう周囲の利用者への配慮をしながら気分転換たができるよう支援に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人が戸外で気持ちよくいきいきと過ごせるよう希望を把握し、家族との外出支援に努めている。	
			(外部評価) 事業所の周囲は閑静な住宅街で、車椅子の利用者も日常的に散歩を楽しめる。月に1回、外食や季節を感じるためのドライブに出かけており、利用者は楽しみにしている。お花見や外食の時には家族にも呼びかけて、一緒に外出を楽しめるようにしている。利用者の希望により、個別に買い物に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理方法等を取り決め本人の希望や力に応じてお金を所持したり使えるように努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話でのやりとりができるようにプライバシーに配慮しながら個別に支援できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の声を聞きながら室温温度の調節を行っている。	
			(外部評価) 食堂は天井が高く天窓があるため、明るく開放感がある。空調管理が行き届いている。事業所は高台にあり、風通しがよく見晴らしがよいため、利用者はウッドデッキにある椅子や窓際のソファに腰掛け、ゆったりと過ごしている。共用空間の掃除は職員が行っており、モップがけなどを利用者が手伝っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファ等、家具の配置を変えており、それぞれの利用者のお気に入りの場所づくりを心掛けている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所の際、自宅で使用していた物を持ってきていただき、新しく購入された方についても一緒に買物に出掛け、本人の気に入った物を購入できるよう支援している。	
			(外部評価) 居室には介護ベッドが備え付けられている。自宅からテーブルやたんすなど使い慣れたものを持ち込めて、利用者や家族の思いが反映されている。居室を自分で掃除する利用者もおり、職員は利用者のできることを見守りながら、その人らしい暮らしを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全を第一としているが、一人ひとりの身体機能に合わせた対応はできていない部分もある。	